

## エジソン記念碑

トーマス・アルバ・エジソン（1847～1931）は、米国の多作な発明家、革新者、実業家でした。彼は、現代の生活に大きな影響を与えた多くの発明品を開発および改良しました。エジソンの白熱電球に関する研究は八幡と結びつきがあるとされており、エジソンとその業績を記念するために、この記念碑が建てられました。

エジソンが 1878 年に電灯システムの開発に取り組んでいたとき、長持ちする信頼性の高い電球を作る必要がありました。重要なポイントは、フィラメントに適した材料を見つけることでした。彼は、金属から綿糸、さらにはあごひげまで、何千もの素材を試し、竹が最も成功の見込みがあることを発見しました。そしてエジソンの助手たちは、京都を含め世界中から竹のサンプルを集めるために派遣されました。彼らの旅で集められた高品質の竹の標本から、1000 時間以上燃焼する耐久性に優れたフィラメントが生まれ、この発見は白熱電球の普及に大きく貢献しました。エジソンがフィラメントとして使用していたのは、質が高いことで全国的に有名だった石清水八幡宮の近くの林の竹だったと言われています。

最初のエジソン記念碑は、石清水八幡宮境内に 1934 年に建立されました。1958 年に現在の場所に移転され、1984 年にデザインを一新し再建されました。